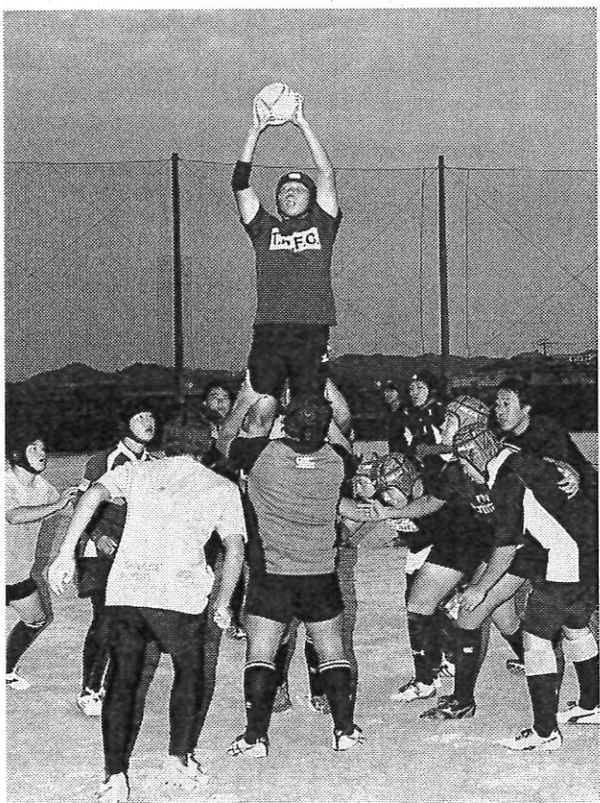


花園への道

全国高校ラグビー県予選

▷ 上 ◁

田辺高校(田辺市学園)と田辺工業高校(同市あけぼの)のラグビー部が、ともに部員不足を乗り越えて23日から始まる全国大会の県予選に出場する。田辺は野球部を引退した3年生が入部するなどして16人。田辺工業は「助っ人」2人を確保して15人で大会に臨む。



合同練習に励む田辺と田辺工業のラグビー部 (田辺市学園の田辺高校で)

部員不足乗り越え出場

田辺、田辺工業

田辺は3年生9人中、6人が夏に引退し、選手は一時12人になった。クラブに残った3年生で主将の久保勝太郎君(18)が、幼なじみの3年生で硬式野球部を引退していた熊野敦也君(17)を勧誘した。

熊野君は夏の大会まで約60人いた野球部の副主将を務めていた。小学校2年生から野球を始め、他の球技はほとんどやったことなかったが「部員が少ないと聞いていたのでチームの助けになれば」と、9月からラグビー部に入部。練習初日に「助っ人ではなく、正式な部員として扱ってほしい」と訴えた。

熊野君は、練習に参加した4日目の練習試合でトライを決めた。「世界が変わった。野球とはまた違う喜びがあった。野球とラグビーの両方で仲間と一緒に勝つ喜び」と話している。

ラグビー部監督の橋脇正典教諭(35)は「野球で培った精神力や運動能力、男1人が一時的にメンバーに加わった。」と話している。

加わった。

一方、田辺工業ラグビー部の選手は、2学期が始まった時点で3年生7人、2年生2人、1年生4人の13人だった。1月の新人戦にも出場した3年生2人が助っ人として加入し、ちょうど15人で大会に出場する。

合同練習で課題克服

田辺と田辺工業は、人数不足を補うため定期的な合同練習をしている。14日も田辺高校のグラウンドで、人数が少ない課題も克服できると話した。

昨春に田辺工業の監督に西浦伸宜教諭(29)が赴

任し、田辺の橋脇教諭とともに紀北出身という縁もあって月1、2回程度の合同練習を始めた。熊野(上富田町)と3校で合同練習することや、3校のOBに胸を借りることもある。いまは大会が近づいたので、週に1回程度合同練習をしていく。

西浦教諭は「近隣校同士で練習させてもらって本当にありがたい。子どもたちの成長が楽しみ。部員の確保は難しいけど、子どもたちの目標になる大会には出場し続けたい」と話している。

◇ 全国高校ラグビー選手権大会県予選が23日、和歌山市の紀三井寺球場で開幕する。田辺・西牟婁からの出場校をリポートする。